カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

祈祷の使徒　祈りの意向

・教皇　教育に携わる人たちが信頼される証し人となって、友愛を育みながら、特に幼く傷つきやすい者の助けとなるように

・日本　聖ヨハネ・パウロ2世が教えてくださった「戦争は人間のしわざ」を思い起こすように

2023年 年頭の手紙

また一緒に始めましょう

大司教 ペトロ 中村倫明

子どもたち、青年の皆さん、大人の皆さま、明けましておめでとうございます。昨年中も大変お世話になりました。今年もよろしくお願いいたします。

今回からわたしの欄は、大きな字にしてもらいました。それは、子どもたちにも読んでもらいたいからです。難しい言葉もありますので、その時は、どうぞ手伝って一緒に読んでください。それは、この新しい年もみんなで一つになって一緒に始めたいからです。

でも「一緒に始めましょう」と言われても、何から一緒に始めたらいいのかよく分からないと思います。一昨年から始められた第16回世界シノドスのために、全信者に求められたアンケートへ答えながら、わたしたちは8年前に行われた長崎教区シノドスを確認し、長崎教区としての指針をあらためてまとめました。その指針をもとに、再びわたしたちは具体的な教区づくりを行っていくことになります。どういう順序で、どんな事から、どんなやり方で、いつから始めるかとか、それは、シノドスのために選ばれた推進委員や各委員会を中心に進めていくことになります。どうぞ、これからも皆さま方のご意見やアドバイスなどを頂きながら、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

声を掛ける

いろんなことが始まっていく年になりますが、その前に皆さんと一緒に考え、一緒に行っていきたいことがあります。それは「声を掛ける」というすべての土台となるとても基本的なことです。わたしが主任司祭であった時代に、とっても基本的でとっても大切なことだと体験し思ったのが、この「声を掛ける」ということでした。今でも大切なことだと考えています。いくつかの教会では「祈りも宣教も声掛けから」というモットーを掲げて教会の方針にさせてもらいました。

祈りも宣教も声掛けから

〝祈り〟は、神さまとの会話のことです。会話の内容も大切ではありますが、ともかくまず神さまに声を掛けることからでないと会話は始まりません。共同で行う祈りやミサでも、まずは実際に声を出していくことが必要です。聖書の朗読だって、声をしっかり出すことです。神さまのみ言葉を、皆さんの声を使って伝えていますか。

「主はともにおられます」とみ言葉を伝える〝宣教〟だって、実際に声を掛けていくことです。

み言葉を伝えていく前にも、まずわたしたちの言葉を掛けていかなければなりません。「ミサにおいでになりませんか」とお誘いしたり教会の話をしたり、教会においでになった初めての方には特に「よくおいでになりましたね」と声を掛けることを忘れてはいけません。ミサの帰りにだって「ありがとうございました。またおいでくださいね」とか「お茶を飲んでいかれませんか」とか、そこから教会や神さまにつながっていく宣教は始まっています。

久しくおいでになっていない方や病気の方には、できれば直接訪問して声をお掛けできれば最高ですが、電話でだって「どうしてますか」と声を掛けることができます。その時わたしたちの声は神さまの声になっています。

お互いの声掛け

わたしたちお互い同士も声を掛け合っていますか。誰にも挨拶せずに教会から帰っていませんか。「元気にしているね」「今日の説教は心に沁みた」とか言葉を交わしていきましょう。できれば「今度は別の人に声を掛けよう」「初めての人に声を掛けよう」と座る席を変えてみたり、声を掛けるためにこの自分から動き出すことを行ってみましょう。

司祭やシスターにも声を掛けていますか。たぶん司祭やシスターは、皆さん方に声を掛けているだろうとは思います。皆さんも遠慮なさらないで声を掛けてください。そしてどうぞ、こんなわたしにも声を掛けてください。

特に子どもたちに声を掛けてください。子どもたちには皆さんの声が大切です。「よく来たね」と声を掛けてください。「よく来たね」これは神さまの声です。神さまの声や思いをわたしたちが伝えていきましょう。そしてできれば声掛けと同時に頭をなでてやってください。もっと神さまの思いは通じますよ。

召命も声掛けから

召命は神さまからの呼び掛けです。でもわたしたちの関わりもとっても大切で、神さまはわたしたちの協力を必要とされ望まれています。そのためにはわたしたちも祈るだけではなくて「神父様にならんね」「シスターにならんね」と実際に声を掛けることが大切です。皆さん声を掛けていますか。よその子どもたちだけでなく、ご自分の子どもたちに、孫たちに声を掛け、そして祈っていますか。

お友だちのみなさんへ

お友だちのみなさんにもこの手紙を読んでもらおうと大きな字にしてもらいました。わたしは大人の方々に、みなさんに声をかけてくれるようにお願いしました。でももしかして、恥ずかしくて声をかけてくれない人もいるかもしれません。その時はお友だちのみなさんの方から「おじちゃん」「おばあちゃん」「神父様」とか声をかけてくださいね。

この手紙をお父さんたちが一人でだまって読んでいたら「声に出してよんで」とお父さんお母さんに言ってください。わからない言葉があったら「わかる言葉で教えて」としつもんしてくださいね。

わたしはお友だちのみなさんに声をかけて伝えたいです。

「かみさまはみなさんを愛しています。かみさまはみなさんとともにいてくださいます」

わたしもみなさんのことが大好きです。

ほしかげ

一年の計は元旦にあり。この言葉の由来は諸説あり、日本での由来は毛利元就だそうだ。一年の計画は年の初めに立てるべきものである。新年を迎え気が引き締まる思いだが、物事は思い描いた通りに運ばないのも、わたしたちは思い知っている。元旦に、この一年が神様の計らいの中にあり、神様に委ねていくものであることをあらためて思い返す▲家内安全、無病息災、正月に浮かぶ願いはさまざまだが、長崎で信仰を生きるわたしたちにとって、世界平和は悲願である。不穏な世界の状況に嘆く一方で、しかし時に、自らの心すら平和でないことの気づきがある▲「わたしは平和を残し、わたしの平和をあなたがたに与える」と仰せになられた、主の約束を思い起こす。「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう」訪問されたマリア様に、エリサベトがかけた言葉である。降誕節は、主の言葉が実現したことを喜ぶ季節でもある。主の平和も必ず実現する▲それはまず、主とあなたとの間で実現する。祈りの時、主とあなたとの間で平和が実現する。それは主がくださる平和である。祈ったことのある者にとって、それは実感する出来事である。平安と言い換えてもいい。祈るとき、主の平安があなたの心に訪れる。心を開いて祈ってみてほしい。この一年を主の平和のうちに始めよう。（馬）

シノドス第16回通常総会に向けて
ともに歩む教会のため
これまでとこれから

「シノドス」という言葉に聞き覚えがあるでしょうか。長崎教区においては信徒発見150周年を迎えるにあたり、2014年に4会期にわたって「教区シノドス」（2015年閉会）が行われました。現在、長崎教区を含む全世界の教会では「シノドス第16回通常総会」に向けた歩み（過程）が続いています。地方教会、大陸・地域、世界代表司教会議の三つの段階に分かれた、一つの大きな歩みとして行われている今回のシノドス。これまでの経緯とともに、長崎教区におけるこれからの方向性を確認・共有するため、ここに掲載します。（広報）

シノドスについて

世界代表司教会議（シノドス）は、第2バチカン公会議の体験によって生まれた積極的な精神を生き生きと保つために1965年教皇パウロ6世が自発教令によって設置したもので、1967年から2～4年ごとに開かれている（『カトリック中央協議会』ウェブサイト参照）。シノドスは「ともに歩む」という意味のギリシア語で、一定時に会合する司教たちの集会のことを指す。

「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマにした2023年10月ローマで開催予定のシノドス第16回通常総会は、一昨年2021年10月10日、バチカンでの開会ミサをもって開会した。翌週17日には全世界の教区において開会式があり、長崎教区でもミサがささげられ、同シノドスの「過程」が始まった。

教皇フランシスコは2022年10月16日、このシノドス第16回通常総会を、「より良い識別の時間を設けるために2023年と2024年の2会期に分けて行う」旨を発表された（バチカン・ニュース）。これによると、第1会期は2023年10月4日から29日まで、第2会期は2024年10月となる。

日本カトリック司教協議会会長の菊地功大司教（東京大司教区）は、日本のカトリック教会の人々に向けて次のように伝えている。

「教皇様は、この複数年にわたる歩みを、当初から強調されているように、司教たちだけのものとせず、全教会が歩みをともにしながら祈りと分かち合いのうちに識別を深め、聖霊に導かれて教会のあるべき姿を再認識し、具体化するよう呼び掛けています。（中略）2025年の聖年に向けて、教会は進むべき道を求め、またあるべき姿を模索しながら、識別の道をともに歩んでまいります。今後も、シノドスの歩みにご注目くださり、全世界の教会と歩みをともにしてくださるようにお願いいたします」（『カトリック中央協議会』2022年11月15日「シノドスの今後の歩みについて」）

長崎教区における これまで

2021年

9月、教皇庁シノドス事務局は全世界の教会に対して、10の質問を含む「準備文書」と「手引書」を送った。これらの文書は日本カトリック司教協議会から各教区シノドス担当者（長崎は教区本部事務局長）に送付され、長崎教区本部事務局は、10月17日のシノドス開会に間に合うよう一連の文書を教区内の各小教区に送った。その後、10の質問に対する回答を各小教区評議会でまとめ、さらに各地区評議会でまとめた。

2022年

3月、長崎教区としての回答は4月3日に予定していた「特別教区シノドス」でまとめることになっていたが、「2015年の教区シノドスの提言に、今回の回答を加えたものを長崎教区としてのまとめとする」ことを決定した。そして6月3日、最終的なまとめ（下段に掲載）をカトリック中央協議会に提出した。

＊昨年6月、日本カトリック司教協議会シノドス全国担当の菊地 功大司教は、日本の全16教区から回答が寄せられたことに対し、「回答の御礼」を伝えた（6月27日付）。その後、「日本の教会の回答書」は英文にして教皇庁シノドス事務局に提出。日本語の文書全文は8月15日付で公開された。

長崎教区における これから

長崎教区においては今後、2015年の教区シノドス後に設置された「教区シノドス提言推進会議」で話し合いながら、長崎教区全体でシノドス的教会の姿を模索していくこととなった。2022年7月31日の同会議では、あらためてこれからの教区シノドス提言推進の在り方を問い直すことを確認。次の会議は、今年2023年1月29日に予定されている。

教区シノドス提言推進会議担当の中濱敬司師は「シノドス第16回通常総会の歩みは現在、教区（地方教会）ステージを経て大陸（・地域）ステージに入り、今年2月にアジアの大陸別シノドスが予定されています。長崎教区でも全世界の教会との歩みを確かなものにするために、これまでの教区シノドス提言推進の在り方を猛省し、新たな熱意で司祭団、修道者、信徒の方々と共に新たな長崎の教会共同体となるよう目指していきたいと思います」としている。

※この文書は2022年6月にカトリック中央協議会に提出した回答です

シノドスに向けて　長崎大司教区のまとめ ❶

なお道を進まれる
イエスに従って
―ともに旅する教会の招きに応えて―

A. 回心とゆるしを求めて 旅する共同体

◆人間として、キリスト者としての成熟を求めて

ともに旅する長崎の教会の一人ひとりは、キリスト者としての成長と成熟が求められています。そのためには、まず教区を挙げて回心の恵みを祈り、また回心の具体的しるしとしての生活の刷新を図らなければなりません。さらに、キリスト者としての成熟のためには、生涯「信仰を追い求め」（2テモテ2・22）なければなりません。信仰は、神がわたしたちのために行われる不思議なわざをいつも新たに見いだすことを可能にしてくれる、生涯の伴侶です。世の中が今、とくに必要としているのは、信頼の置ける人のあかしです。主のことばによって思いと心を照らされて人は、多くの人の心と思いを、神と、まことの終わりないいのちを求めるよう開くことができるのです（教皇ベネディクト十六世『信仰の門』15参照）。信仰を追い求め、成熟を目指すために、長崎の教会は司教、司祭、修道者、信徒の生涯にわたる霊的養成を配慮し、具体的な手立てを講じなければなりません。

◆キリストの福音に支えられた共同体づくり

キリストの福音をどのように受け止めるのか、その受け止めた福音を支えにどのような共同体を築くのか、長崎の教会は今キリストの牧職（世話するつとめ）、預言職（教え、伝えるつとめ）、祭司職（ささげ、とりなすつとめ）を具体的にあかしする共同体づくりが求められています。以前からあった稽古、地区集会など、祈りとみことばと要理の学びを中心に、かつての長崎の教会は共同体の絆を保ってきました。これからどのような方法をもって、福音に支えられた共同体づくりをしていくのでしょうか。また、こうした共同体に奉仕したかつての看坊、信徒発見後の教会共同体の宿老、顧問とよばれた信徒の世話役であり司祭たちの相談役としての役割の再考も求められています。

◆典礼・秘跡によって生まれ、育まれる共同体づくり

長崎の教会がキリストの共同体を再構築するとき、いつも典礼から出発しなければなりません。そのためには、小教区共同体の典礼的な養成と典礼の活性化は不可欠です。さらに、典礼の中で行われる司牧者の説教は、とても重要な役割を持っていることを忘れてはなりません。神は説教者を通して人の心に触れることを望まれ、人間のことばを通してご自分の力を発揮されるからです。そのため、司牧者の説教の準備は、共同体がみことばで養われ、マンネリ化しない典礼のためにもとても重要です。準備をしない説教者は「霊的」ではなく、受けたたまものに対して不忠実で無責任です。説教者はまず、みことばによって心を動かされ、自分の具体的な日常生活の中にみことばが宿るようにしなければ、偽預言者、詐欺師、中身のない山師にすぎなくなってしまいます（教皇フランシスコ『福音の喜び』135～159参照）。

（つづく）

長崎教区福音化推進部からお願い

2022年10月、長崎教区に日本カトリック障害者連絡協議会〔カ障連〕長崎支部が発足しました。今年10月、カ障連長崎大会が開かれます。長崎大会の準備に携わる長崎支部への参加は、障害の有無にかかわらず可能です。皆様の参加をお待ちしております。

【連絡先】カ障連長崎支部　〒852-8113 長崎市上野町10-34
TEL 070-8569-0522　FAX 095-807-4910
ksrnagasaki@gmail.com 個人情報は門外不出を遵守いたします

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲

ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町23-17 立岩公園前

CALIS Catholic Life Service
カリス通信　1月号
「カトリック聖職者 医療・介護補償制度」
「カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度」のご紹介

各教区・修道会の聖職者の皆様を対象に、相互扶助の精神に基づいた互助制度「カトリック聖職者 医療・介護補償制度」および「カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度」をご紹介します。

＜カトリック聖職者 医療・介護補償制度＞
●本制度の特長
業務に従事するカトリック聖職者に対し、「災害補償規定」に基づき、葬祭、介護、病気、ケガ費用を広く補償します。
・対象：教区、修道会に所属する司教、司祭、助祭、修道士、修道女等。
・加入：教区、修道会毎に全員加入。
●お支払する保険金
・医療補償：病気で入院した場合、病気やケガで放射線治療を受けられた場合等に、葬祭費用、介護費用、疾病入院費用、医療放射線治療費用を給付。
・傷害補償：就業中（通勤途上を含む）に被った急激かつ偶然な外来の事故によりケガをされた場合、死亡・後遺障害、入院費用、傷害費用の見舞金を給付。

＜カトリック司祭・修道会 医療費用共済制度＞
●本制度の特長
司祭、修道士、修道女、神学生等に、別途定める「カトリック共済制度災害補償規定」に基づき、災害発生時に見舞金を給付します。
・対象：教区、修道会、在俗会、宣教会に在籍される司祭、修道士、修道女、神学生等。
・加入：各教区、修道会等の在籍組織単位で一括加入。
●お支払する保険金
・葬祭費用見舞金：死亡時に、教区、修道会や遺族が葬式・祭祀に要した費用を実費で年齢による限度額を補償。
・傷害治療見舞金：ケガによる後遺障害の程度、ケガによる入院期間、通院期間に応じて見舞金を給付。
・疾病治療見舞金：病気による入院時に、入院期間に応じて給付。

※制度の内容は「カトリック聖職者医療・介護補償制度」「カトリック司祭・医療費用共済制度」「カトリック修道会・医療費用共済制度」のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である団体の代表の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点等ございましたらご連絡ください。

私たちが、お守りします。
三條貴英　毛利玲子　山本泰彦
服部秀昭　川口 薫神父(顧問)

カトリック共済システム 有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
22-TC06318
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

教皇大使から大司教へ「パリウム」の授与

王であるキリストの祭日、昨年11月20日（日）9時30分から行われた浦上教会でのミサの中で、駐日ローマ教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教から中村倫明大司教へ「パリウム」が授与された。

パリウムとは、聖アグネスの記念日（1月21日）に祝福された羊の毛で作られた円形の帯で、6カ所に黒い十字の刺しゅうが施されている。大司教の任務と権能、また教皇との親密な一致と交わりを象徴する。

ミサの初めに教皇大使は日本語で語り、教皇と全教会のため、パリウムを与えられる大司教のために祈るよう招いた。パリウムを受けた中村大司教は、大使に導かれて司教座に着き、続くミサの司式を務めた。大司教は説教の中で、この日の福音箇所（ルカ23・35－43）を引きながら、王であるキリストがどのような方であるかを黙想し、語った（説教全文は右のQRコードから閲覧可）。

ミサの終わりには祝賀式が行われ、長崎教区信徒の代表者からお祝いの言葉が伝えられた。ミサには高見三明名誉大司教と司祭団、信徒ら合わせて約400人が参加し、聖堂内は感謝と喜びの拍手で満たされた。

後日、教皇大使から中村大司教に届いた手紙には、「大聖堂で神の民の素晴らしい参加を見ました。あなたがどれほど長崎教区の皆さんを愛し、長崎教区の皆さんがどれほどあなたを愛しているかを見ました」との温かい言葉がつづられていたという。

平戸ザビエル祭

フランシスコ・ザビエル列聖400周年を迎えた2022年、12月4日（日）平戸ザビエル記念教会で参加者を150人に絞り、平戸ザビエル祭が開催された。聖人への感謝とこれからの平戸地区への取り次ぎを願い、ミサの主司式を務めた中村倫明大司教をはじめ、地区司祭団、修道女、小教区の代表が集まった。

今回のザビエル祭を特別な形で迎えようと、地区の青年会メンバーがザビエル神父の紹介動画を青年会担当の岩下裕志師と一緒に製作し、ミサの前に観賞した。

ミサの中で中村大司教は、「聖フランシスコ・ザビエルは鹿児島に上陸してから長崎で足を降ろしたのはここ平戸だけでした。ザビエル神父様の働きの中で重要な位置を占めていたことの一つは司祭養成でした。皆さんよくご存知でしょう。後に最初の日本人司祭となったのは、神父様の滞在中お世話した木村氏の孫、セバスチャン木村神父様です。最初の召命の実りが与えられたこの平戸の地で、これからまた司祭・修道者の恵みが与えられるよう、取り次ぎを願いましょう」と話し、参加者を励ました。

ミサの退堂の間、大司教が参列者に掛ける温かく力強い声が心に残った。

飽の浦小教区創立100周年記念ミサを終えて

11月23日（水）10時から、中村倫明大司教様をお迎えして飽の浦小教区創立100周年記念ミサが行われました。

心配された雨も上がり、2年近くにわたって準備してきたミサは、「1922年（大正11年）フレスノン神父様が着任され、その年の12月10日に中町教会から独立し、飽の浦小教区が誕生しました」との招きの言葉で始まりました。

ミサの中で大司教様は「盛時は4000余人の信徒数がありましたが、現在は1200余人となり、少子高齢化の波が押し寄せています」と語られました。そして、ゲネサレト湖畔で夜通し漁をして何も取れず落胆し疲れていたであろうペトロと漁師たちに、イエス様が「もう一度網を」と声を掛けた聖書の場面を引用し、「決してあきらめず、恵みを与えてくださるイエス様を信じてともに歩んでいきましょう」と呼び掛けられました。

記念ミサの始まりに司祭団と共に侍者として先頭を歩いた子どもたちを希望とし、先人たちの熱い思いと祈りに応えられる共同体となるように聖霊の導きを願い、ミサが終了いたしました。

最後に、共に祈ってくださる長崎教区の皆様と、ミサをささげていただきました長崎南地区、歴代の主任・助任の神父様方、出身の神父様・シスター方に、お礼と感謝を申し上げます。

飽の浦小教区評議会

2つの地区で合同堅信式

上五島地区

上五島地区合同堅信式が11月13日（日）午後2時から青方教会で中村倫明大司教司式により行われ、中学生20人が堅信の秘跡を受けた。

大司教は説教の中で、映画『アルマゲドン』のストーリーと主題歌ミス・ア・シングを引用しながら「弱い人間を救うために父なる神様はイエス様をこの世に遣わされた。堅信は神様がともにいてくださることの証しでもあり、神様は弱い人間を決して見捨てることがない」と受堅者たちを力づけた。

受堅者代表の冷水教会、平瀬龍太さん（中2）はあいさつの中で、「いろいろな困難や試練に遭っても、神様と教会に固く結ばれ、イエス様の証し人として、与えられた信仰をもって社会を歩んで行きたい」と述べ、決意を表した。

長崎南地区

11月20日（日）王であるキリストの祭日、中町教会で、中村倫明大司教司式による長崎南地区の合同堅信式が行われ、40人（大浦2、大山4、木鉢11、小ヶ倉3、中町4、深堀6、飽の浦2、愛宕1、本河内1、神の島4、香焼2）が受堅した。

ミサの説教で大司教は、十字架の罪人の「私を思い出してください」の言葉を受け、「神が私を忘れないことを受け入れること、これが信仰」と強調し、「イエスよ、み国においでになる時に～♪」を歌って説教を結んだ。

ミサに続く感謝式で大司教は、堅信の準備で「叙階」の秘跡を学んだことを思い起こさせ、受堅者に司祭召命と誓願への道を促した。

二〇二三年 謹賀新年

大司教　中村　倫明(34)
名誉大司教　髙見　三明(50)

長崎大司教区

下川　英利(62)長崎市
山内　豊(62)平戸市
山内　清海(61)大司教館
下村　徹(60)原爆ホーム本館
村中　司(60)長崎市
峰　徳美(60)〃
平野　勇(59)鹿子前
野下　千年(59)センター
宮川　俊行(59)ケアハウスかおり
小島　栄(58)大司教館
萩原　劭(56)お告げ本部
川上　忠秋(55)大司教館
片岡　久司(55)〃
川口　清(54)五島市
濱崎　靖彦(54)神崎
長谷　功(54)聖マルコ園
橋本　勲(53)センター
山川　忠(53)大村市
下口　勲(50)島原
大山　繁(49)平戸口
松下　光男(47)上神崎
小瀬良　明(47)稲佐
村川　昌彦(46)八幡町
山内　実(45)相浦
諸岡　清美(45)大浦天主堂司祭館
岩村　知彦(41)飽の浦
烏山　邦夫(41)馬込
古巣　馨(41)大司教館
山脇　守(40)滑石
山田　聡(39)大山
中村　満(38)福江、浜脇、井持浦
岩崎　康彦(38)佐々
川内　和則(37)鯛之浦
久志利津男(37)浦上
髙野　治(37)大野
下山　盛朗(36)出津
鳥瀬　文武(36)青砂ヶ浦
牧山　強美(34)大神学院
福島　光明(33)植松
眞浦　健吾(33)青方、丸尾
中濱　敬司(33)センター
紙﨑　新一(32)浅子
平本　義和(32)長与
葛嶋　秀信(32)中町
中濱　繁喜(32)西木場
鍋内　正志(31)深堀
山村　憲一(31)平戸
岩崎　晋吾(30)諫早
下窄　英知(30)大分
中田　輝次(30)田平
湯浅　俊治(28)大神学院
浅田　照明(28)太田尾
大水　文隆(28)大浦
辻原　達也(27)小ヶ倉、大山
川原　拓也(27)桐
松田　聡史(26)小神学院
山本　一郎(25)木鉢
嘉松　宏樹(25)福岡コレジオ
中島　誠志(25)三浦町
山田　良秋(24)三ツ山
川口　昭人(24)水主町
一ノ瀬輝幸(24)早岐
岡　秋美(24)時津
熊川　幸徳(23)大神学院
大瀬良直人(23)三井楽、貝津
竹内　英次(22)福岡・二日市
岩本　繁幸(21)センター
尾髙　修一(21)中央協議会
川原　昭如(21)宝亀
葛島　輝義(20)浦上
工藤　秀晃(20)浦頭
鶴﨑　伸也(20)紐差
竹谷　誠(19)大曽
前田　達也(19)大司教館
本田　靖彦(19)黒崎
岩下　和樹(17)福岡・茶山
山口竜太郎(17)小神学院
鶴巻　健二(17)木鉢(小瀬戸)
汐留　義和(16)浜串
熊谷　裕司(16)水ノ浦
谷脇誠一郎(15)俵町
山添　克明(14)黒島
野濱　達也(14)真手ノ浦
岩下　裕志(13)山田
中尾　直通(12)大神学院
大水　満(10)褥崎
中野健一郎(9)浦上
川端　志範(8)大崎
小島　明(7)奈留
稲田　伸也(7)福岡コレジオ
山内　啓輔(6)神ノ島
下原　和希(5)仲知
キム・ボム(4)天神
宮原　大地(3)土井ノ浦
青田　憲司(2)曽根
稲田　祐馬(2)福江
鼈甲屋賢治(1)浦上
ナム・シジン(1)滑石
西田　祐尚(1)福江

修道会など

●イエズス会
泉　類治(59)日本二十六聖人修道院
キム・ヒョンウク(7)日本二十六聖人記念館

●コンベンツアル聖フランシスコ修道会
濱田　盛雄(63)湯江
西山　達也(62)湯江修道院
萩原栄三郎(58)小長井修道院
山内　春治(58)湯江修道院
瀧　憲志(57)〃
﨑濵　宏美(55)聖母の騎士修道院
水浦　征男(54)〃
山下　公輝(44)湯江
大野　幹夫(40)湯江修道院
キム・ヒーイル(27)東長崎
山口　雅稔(18)本河内
イ・シンヒョン(11)聖コルベ志願院

●聖アウグスチノ修道会
今田　昌樹(29)城山
平野　哲也(29)〃
チャーリー・バヌエボ・ポムセノ(12)〃
松尾　太(5)〃

●レデンプトール会
瀬戸　高志(28)愛宕

●フランシスコ会
片岡　仁志(60)長崎修道院
クラウディオ・ジャネシン(54)本原

関口　七郎(46)センター
アルベルト・マーフィル(33)長崎修道院
松本　巌(26)〃
古里慶史郎(21)〃
ベラルド・ヤン(19)〃

●神言修道会
川上　栄光(49)西町
永山　誠(43)長崎修道院
西　経一(39)〃
スタニスワヴ・ポウォムスキ(37)西町
ティブルティウス・ヘリ(24)聖ルドヴィコ修院
ネルソン・アブライ・バルバロナ(8)西町
ジョナサン・レイ・ビリアコルタ(2)〃

●マリア会
坪光　正躬(51)海星修道院
末吉　克久(40)〃

●サレジオ修道会
バルカザル・ペドロ(50)イエスのカリタス牧野修道院
濵﨑　敦愛(23)野

●韓国殉教福者聖職修道会
キム・ドンウク(12)香焼
カン・デフン(11)中町

●聖ビンセンシオの宣教会
アウグスチン・トゥ(1)センター

●オプス・デイ
木村　昌平(19)長崎
碕　恵介(9)〃

（　）内は叙階年数

ウクライナとロシアへ
平和を願う霊的花束おくる

「わたしたちには祈りの武器があります」

長引く戦争、核兵器の使用さえ懸念される世界情勢の中、平和の実現を願う中村倫明大司教の呼び掛けで、ロザリオの聖母の記念日を開始日として、教区内各地で熱心な祈りがささげられました。

平和をつくりたいと願う心からの祈りは、霊的花束として彩り豊かな色紙やカードにまとめられ、各教会のみならず、修道院、学校、施設から多数寄せられました。皆様のご参加、ご協力に感謝申し上げます。

この花束は、二つに分けられ、ウクライナとロシアのバチカン大使に宛てた中村大司教の書簡と共に11月末、両国に発送されました。送付にあたって、仲介をいただいたフォコラーレ長崎支部のミシェル・ソパラさんは、こう感想を述べられました。「数々の霊的花束を広げたとき、長崎の信者の信仰と寛大な心、そして、祈りをどれほど大切にしているかを見た思いがしました。本当に大きな喜びと感動を受けました。私たちの祈りが必ず天に届いたと強く感じました」

これからも委員会としてよき平和の道具となれるよう努めていきたいと思います。

教区平和推進委員会
委員長　鍋内 正志

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

下五島 第2回青年の集い
福江教会の2人が参加

11月23日（水）第2回下五島地区青年の集いが行われた。コロナの状況などで参加者が福江教会のベトナム人青年2人のみとなったため、内容はレクリエーションから急きょ巡礼に変更された。

浦頭、堂崎、宮原、半泊、福江の各教会を巡り、それぞれの聖堂で一連ずつ、意向に合わせロザリオの祈りをささげた。最後に福江教会でテゼの祈りをささげた後、福江教会の青年活動に移った。

青年たちは、典礼季節に合わせた教会掲示板の壁面装飾や青年バザーのためのEM石鹸、蜜蝋ラップ、ポスター作りなどに継続的に取り組んでいる。都合で集まれない青年たちも自宅で作成したものを持ってきてくれたりと協力的だ。

ベトナム人青年たちは、五島海陽高校近くの日本語学校の2年生。2年間のカリキュラムのうち最初の1年はコロナ禍で来日できず、オンラインでの授業だったそうだ。困難な状況ながらも、故郷を離れ異国の地で信仰を生きる彼らの姿に励まされている。今回の集いにご協力くださった皆様への感謝とともに、引き続き青年たちへの声掛けと支援をお願いしたい。

（下五島地区）

ゆりの会主催、教区人権委員会協力による追悼ミサが、昨年11月26日（土）14時から西坂・聖フィリッポ教会でささげられ、約30人が共に祈った。

ミサの司式を務めた中村倫明大司教は説教の中で、イエスを裏切ったイスカリオテのユダに焦点をあてて語り、「真面目な性格さゆえに自分を責め、絶望して死んでいったと思われるユダと同じように、自死された人たちも真面目な人たちではなかったのでしょうか。ユダに対して主は友よと呼び掛けてくださった。どんな人も主が受け入れてくださることを信じましょう」と説いた。

主催者は、「この追悼ミサは2011年に始まり、12回目となります。このミサが、自死された方々、そしてご遺族の悲しみ、痛みに、共に祈ることで応えるものとなるよう、これからも続けていきたいと思います」と語っていた。

自死された方々への追悼ミサ

私が来たのは

五番街の道端にスズメノカタビラを見つけた。「わたしを踏まないで」こんな小さな草にも花言葉があった。小さな命にも宿る声を人が花言葉としたのだろう。通り抜けて駅前のバス待合所にはたくさんの人がいた。スズメノカタビラのおかげで、体の不自由な人の多さに気づけた。行き交う人の間に、杖をついて歩く人、曲がった腕を抱える人、両足に補助器をつけている人。この先にはまだ声を宿す誰かがいるのではないか。足を進めると、ベンチに座って、周囲を見渡す高齢者。見覚えがある。教会を訪ねて来た方だ。勇気を出して声をかけた。「私は耳が聞こえないんです」と返してきた。私は覚えられていないらしい。「わたしを踏まないで」「私は耳が聞こえないんです」。聞こえないのは、私なんだと感じた。

みことばにふれて 197
中島 誠志　神父
（長崎教区信仰教育委員会、三浦町教会）

33年生きたイエスは「私が来たのは」と繰り返す。「わたしは、天から降って来た生きたパン」（ヨハ6・51）。「わたしが来たのは、羊が命を受けるため」（ヨハ10・10）。「わたしはまさにこの時のために来た」（ヨハ12・27）。「わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために来た」（ヨハ12・47）。「わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く」（ヨハ16・28）。

もうすでに50年生かしてもらった。司祭となって25年も生かしてもらった。受け止めてくださった方のおかげだ。週一度夕食を司祭仲間と食べる。「毎週、出る時には遺言書を机の上に置いてくる。会計担当が困らないように」と先輩が語る。はかないいのちの現実をまっすぐ見つめる強さを感じた。怖くて直視できない私の弱さに気づいた。私は何のために生まれたのか。教皇様は「わたしはだれのためにあるのか」（使徒的勧告『キリストは生きている』286）この問いがもっと大事だと教える。

あなたも私もすでに誰かのためにある。神はそう造られた。「わたしを踏まないで」という声々との出会い。イエスはもっと聞かれた。だから「私が来たのは」と繰り返す。「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっている」（ロマ11・36）とパウロも教える。新しい年が与えられた。私は誰のためにあるか。私が来たのは。きっとイエスも父に問いながら生きた。

感謝
―寄付―
●長崎カトリック神学院
●平戸地区評議会様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

召命の歩みの支えとして
平戸地区評議会と教区評議会女性部から

11月20日（日）平戸地区評議会の代表者5人が長崎カトリック神学院を訪れ、神学生らのために同地区で集めた援助物資と寄付金を届けた（写真）。この取り組みは、今回で48回目。毎年新米の季節に、平戸地区の各小教区に呼び掛けて米や日用品など援助物資を募るものである。神学生たちは、あらためて多くの方々に支えられていることを実感し、感謝しながら召命の歩みを続けていく決意を新たにした。

また、11月12日（土）教区評議会女性部役員5人が大司教館を訪れ、神学生養成援助献金683万4372円（小切手）を中村倫明大司教に届けた。召命のための献金の呼び掛けや祈りの他、年間を通してさまざまな活動がある女性部。役員の一人は、「大司教様が終始笑顔で私たちの活動の話に耳を傾けてくださったので、和やかに懇談できました」と語っていた。

ぶどう園
▼遠藤周作没後25年記念
企画展「遠藤周作　母をめぐる旅―『沈黙』から『侍』へ」2021年から開催中　2023年3月24日㈮まで（休館日は12月29日～1月3日）、遠藤周作文学館。

マリア
土本ツギ修道女
（お告げのマリア修道会）

昨年11月15日逝去。93歳。

1929年長崎市生まれ。63年初誓願、72年終生誓願宣立。46年大野修道院に入会し、出津修道院との合併後は聖マルコ園で調理を担当した。その後、神学院、神ノ島教会で司祭や神学生のお世話を長年行った。

湯布院修道院で数年過ごし、出津に帰ってからは農耕係として働いた。糖尿病、すい臓がんを宣告された後もその姿は変わらず、寡黙でありながらもユーモアと広い心で人々を魅了した。強い芯の持ち主で、召される数日前まで姉妹たちの手を煩わすことなく御父のみもとに帰った。

葬儀ミサ・告別式は17日、出津教会で行われた。

ベネディクト
谷津良勝 神父
（フランシスコ会）

11月26日、後腹膜脂肪肉腫のため東京・瀬田修道院で逝去。88歳。

1934年北海道夕張市生まれ。56年3月31日着衣、60年初誓願、63年荘厳誓願。67年4月1日司祭叙階。

叙階後、東京・板橋、札幌北11条、砂川、旭川神居、東京・田園調布、長崎・本原、栃木・峰などの各教会で司牧活動の傍ら、ミッション校や幼稚園での奉仕、教誨師としても長い間働き、長年の奉仕に対し、政府から褒章の授与もあった。公的な仕事を終えた後は、東京・瀬田修道院で修道者として誠実に典礼奉仕などを行っていた。

葬儀ミサ・告別式は12月1日、瀬田教会で行われた。

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人　平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・通所リハビリテーション

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

空き家を減らし、街の灯を灯す
行政書士
ヨゼフ 鼻崎 貴広
宅地建物取引士
管理業務主任者
賃貸不動産経営管理士
浜電気グループ　はなさき貴広事務所
〒850-0853 長崎市浜町2番7号 TEL:095-827-8400/FAX:095-824-4150